

# J.LEAGUE™ NEWS



© J.LEAGUE PHOTOS

2位で迎えた最終節の鹿島戦に勝利し、劇的な優勝を飾った広島。最後まで諦めない戦いが実を結んだ

## サンフレッチェ広島が2連覇、2度目の優勝

中村俊輔(横浜F・マリノス)が最優秀選手賞を受賞。ガンバ大阪、ヴィッセル神戸、徳島ヴォルティスがJ1昇格

2013シーズンのJ1リーグ戦が12月7日に終了し、サンフレッチェ広島が2連覇、2度目の優勝を達成した。最終節の第34節を前に首位の横浜F・マリノス、2位の広島、3位の鹿島アントラーズに優勝の可能性がある中、3チームの中で唯一、勝利を収めた広島がタイトルを獲得した。J2リーグ戦は優勝のガンバ大阪、2位のヴィッセル神戸がJ1に自動昇格。4位の徳島ヴォルティスが同8日に開催されたJ1昇格プレーオフを制し、四国勢としては初のJ1クラブとなった。同10日は「2013 Jリーグアウォーズ」が行われ、横浜FMのMF中村俊輔が最優秀選手賞を獲得。Jリーグ史上初となる2度目の受賞となった。(2~6ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS

								
J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER 	J.LEAGUE™ FAIRPLAY PARTNER 	LEAGUE CUP SPONSOR 	SUPER CUP SPONSOR 	J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER 	J.LEAGUE™ OFFICIAL SUPPLIER 	J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER 	SPORTS PROMOTION PARTNER 	J.LEAGUE™ OFFICIAL TICKETING PARTNER 

# 最終節のドラマ。上位対決の3カードに優勝、ACL出場権が懸かる



©J.LEAGUE PHOTOS

最終節の鹿島戦で先制点を決める広島の石原(右)。試合終盤にも貴重な追加点を挙げた。左は鹿島の中田



©J.LEAGUE PHOTOS

得点王となった川崎Fの大久保(左)をマークする横浜FMの中澤。最終節では両チームの明暗が分かれた



©J.LEAGUE PHOTOS

C大阪の柿谷は浦和戦で2得点。ACL出場に望みをたないだ

J1リーグ戦は最終節となる第34節の前に、首位の横浜F・マリノス、2位のサンフレッチェ広島、3位の鹿島アントラーズという3チームに優勝の可能性が残されていた。さらに、3位以上となるAFCチャンピオンズリーグ(ACL)出場権獲得を目指し、4~6位の浦和レッズ、川崎フロンターレ、セレッソ大阪がしのぎを削っていた。そして、最終節はくしくも川崎F vs 横浜FM、鹿島 vs 広島、浦和 vs C大阪という上位対決によるドラマチックな幕切れとなった。

県立カシマサッカースタジアムでは、優勝するには勝利が絶対条件の鹿島と広島が対決した。35分に均衡を破ったのは、横浜FMを勝点2差で追う広島のMF石原直樹。石原は

80分にも追加点を決め、広島が2-0の勝利を収めた。やや遅れて終了した試合で横浜FMが敗れたことにより、勝点上で上回った広島の2連覇が決まった。残り2節の時点では横浜FMとの勝点差が5と開いただけに、森保一監督は「優勝を信じて最後まで諦めない気持ちで戦ったことが、結果となって結び付いた」と話した。敗れた鹿島は5位に順位を下げ、ACL出場権獲得も逃した。

横浜FMは第33節、ホームでのアルビレックス新潟戦に勝利すれば、9年ぶりの優勝が決まるというチャンスがあった。ところが、日産スタジアムにリーグ戦で史上最多となる6万2632人の入場者を集めた一戦で0-2の黒星。勝てば優勝という最終節の川崎F戦にも0-1と敗れ、第29節からキープした首位の座を明け渡した。一方、川崎Fはこの勝利で3位に浮上し、ACL出場権を獲得。今シーズン通算26点を挙げたFW大久保嘉人が、初の得点王となった。

ACL出場権を懸けて戦った浦和とC大阪の対決は、FW柿谷曜一朗の2得点などでC大阪が5-2の勝利。リーグ戦の順位は4位に上がり、第93回天皇杯全日本サッカー選手権大会で広島、横浜FM、川崎Fのいずれかが優勝すれば、繰り上げでACL出場権を手にする。また、湘南ベルマーレ、ジュビロ磐田、大分トリニータの3チームが降格し、来シーズンはJ2で戦うことになった。

## 順位表

順位	チーム	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失差
1	サンフレッチェ広島	63	34	19	6	9	51	29	+22
2	横浜F・マリノス	62	34	18	8	8	49	31	+18
3	川崎フロンターレ	60	34	18	6	10	65	51	+14
4	セレッソ大阪	59	34	16	11	7	53	32	+21
5	鹿島アントラーズ	59	34	18	5	11	60	52	+8
6	浦和レッズ	58	34	17	7	10	66	56	+10
7	アルビレックス新潟	55	34	17	4	13	48	42	+6
8	F C東京	54	34	16	6	12	61	47	+14
9	清水エスパルス	50	34	15	5	14	48	57	-9
10	柏レイソル	48	34	13	9	12	56	59	-3
11	名古屋グランパス	47	34	13	8	13	47	48	-1
12	サガン鳥栖	46	34	13	7	14	54	63	-9
13	ベガルタ仙台	45	34	11	12	11	41	38	+3
14	大宮アルディージャ	45	34	14	3	17	45	48	-3
15	ヴァンフォーレ甲府	37	34	8	13	13	30	41	-11
16	湘南ベルマーレ	25	34	6	7	21	34	62	-28
17	ジュビロ磐田	23	34	4	11	19	40	56	-16
18	大分トリニータ	14	34	2	8	24	31	67	-36

## 広島の優勝における大東和美チアマン コメント

サンフレッチェ広島のリーグ戦2連覇、誠におめでとうございます。今シーズンのリーグ戦は最後まで優勝争いもつれる。非常に見応えのある展開となりました。最終節では3クラブに優勝の可能性があり、また上位クラブにACLへの出場も懸かる緊迫した状況の中、広島が勝利で試合を締めくくり、見事に頂点に立ちました。各クラブのファン・サポーターは固唾をのんで試合の状況を見守ったのではないでしょう。

今シーズンの広島は、FUJIXEROX SUPER CUPの優勝でスタートし、リーグ戦においても序盤から安定した戦いで勝利を重ねてきました。リーグ戦2連覇という結果は、まさにチームの集大成であったと心から敬意を表します。Jリーグはことし、リーグ戦開幕20周年を迎えましたが、1993年のJリーグスタート時から在籍する広島が、リーグ20周年の歴史に名を刻むにふさわしい堂々たる戦い方で優勝を決めたことには、大変感慨深いものがあります。

また、1993年に広島で選手としてピッチに立ち、その後ドーハの悲劇や、各地のJクラブを経験した森保一監督が、同じ広島でリーグ戦2連覇という偉業を成し遂げたことには、万感の思いがあり、その手腕を高く評価します。監督、選手、チームスタッフ、クラブ関係者はもちろんのこと、ホームタウンの広島市をはじめとする多くのファン・サポーター、サンフレッチェ広島を1年間熱く支えて応援していただいた全ての関係者の皆さまに、心よりお祝い申し上げます。

## 得点ランキング上位

順位	選手	所属	得点数	順位	選手	所属	得点数
1	大久保 嘉人	川崎F	26	7	渡邊 千真	F東京	17
2	川又 堅基	新潟	23	7	佐藤 寿人	広島	17
3	柿谷 曜一朗	C大阪	21	9	マルキーニョス	横浜FM	16
4	豊田 陽平	鳥栖	20	10	ウイロン	仙台	13
5	大迫 勇也	鹿島	19	10	興梠 慎三	浦和	13
5	工藤 壮人	柏	19				

# ガンバ大阪が優勝、 2位はヴィッセル神戸



第41節で優勝を決めたG大阪。アジア制覇の実績もある強豪が、1年でJ1復帰を果たした

J2リーグ戦は関西勢がリードし、1~3位をガンバ大阪、ヴィッセル神戸、京都サンガF.C.が占めた。優勝したのは、初めてJ2で戦ったG大阪。まず第39節のロアソーン熊本戦で、自動昇格の条件の一つとなる2位以上が確定。第41節のモンテディオ山形戦で5連勝を飾り、優勝を決めた。MF遠藤保仁、DF今野泰幸という中心選手がSAMURAI BLUE(日本代表)の海外遠征で不在の時も、安定した成績を残した。7月に海外のクラブから復帰したMF宇佐美貴史は、18試合で19得点を挙げる活躍を見せて、チームに勢いをつけた。今シーズンから指揮を執った長谷川健太監督は「1年間を通してJ1復帰に強い気持ちを持って戦った結果」と語った。

2位となって、やはり1年でのJ1復帰を果た

したのが神戸。前半戦は第2~15節で首位をキープし、後半戦も第35~38節でトップに立つなど、G大阪と競り合った。2位以上を確定したのは第40節。安達 亮監督は「選手もスタッフも非常にいい仕事をしてくれた。結果として



神戸も1年でJ1復帰(最終節の熊本戦)

## 順位表

順位	チーム	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失差
1	ガンバ大阪	87	42	25	12	5	99	46	+53
2	ヴィッセル神戸	83	42	25	8	9	78	41	+37
3	京都サンガF.C.	70	42	20	10	12	68	46	+22
4	徳島ヴォルティス	67	42	20	7	15	56	51	+5
5	ジェフユナイテッド千葉	66	42	18	12	12	68	49	+19
6	V・ファーレン長崎	66	42	19	9	14	48	40	+8
7	松本山雅FC	66	42	19	9	14	54	54	+0
8	コンサドーレ札幌	64	42	20	4	18	60	49	+11
9	栃木SC	63	42	17	12	13	61	55	+6
10	モンテディオ山形	59	42	16	11	15	74	61	+13
11	横浜FC	58	42	15	13	14	49	46	+3
12	ファジアーノ岡山	56	42	13	17	12	52	48	+4
13	東京ヴェルディ	56	42	14	14	14	52	58	-6
14	アビスパ福岡	56	42	15	11	16	47	54	-7
15	水戸ホーリーホック	55	42	14	13	15	50	58	-8
16	ギラヴァンツ北九州	49	42	13	10	19	50	60	-10
17	愛媛FC	47	42	12	11	19	43	52	-9
18	カタレ富山	44	42	11	11	20	45	59	-14
19	ロアソーン熊本	43	42	10	13	19	40	70	-30
20	ザスパクサツ群馬	40	42	9	13	20	43	61	-18
21	FC岐阜	37	42	9	10	23	37	80	-43
22	ガイナレ鳥取	31	42	5	16	21	38	74	-36

は満足」と振り返った。

J1昇格プレーオフ出場となる3~6位を目指す争いは、京都が第39節で6位以上を確定した後、最終節の第42節を前に5チームがしのぎを削った。最終戦では徳島ヴォルティスがV・ファーレン長崎を破り、4位に浮上。敗れた長崎も6位を確保した。ガイナレ鳥取と対戦したジェフユナイテッド千葉は、後半アディショナルタイム2分の同点ゴールで引き分けに持ち込み、5位をキープした。松本山雅FCは千葉、長崎と勝点で並ぶも得失点差で7位。勝てば5~6位が確定したコンサドーレ札幌はギラヴァンツ北九州と引き分けて8位に終わり、あと一步及ばなかった。

## 得点ランキング上位

順位	選手	所属	得点数	順位	選手	所属	得点数
1	ケンベス	千葉	22	4	ボボ	神戸	16
2	宇佐美 貴史	G大阪	19	4	小川 慶治朗	神戸	16
3	内村 圭宏	札幌	17	8	津田 知宏	徳島	14
4	サビア	栃木	16	9	平繁 龍一	群馬	13
4	クリスティアーノ	栃木	16	9	レアンドロ	G大阪	13

## 2013 J.LEAGUE ROAD TO J1 PLAY-OFFS

### 徳島ヴォルティスが昇格。四国初のJ1クラブに

J1昇格プレーオフの準決勝が12月1日、決勝が同8日に開催され、徳島ヴォルティスがJリーグ入会9年目でクラブ史上初の昇格を果たした。J2リーグ戦で4位の徳島は国立競技場が舞台となった決勝で、同3位の京都サンガF.C.を2-0で下した。四国のクラブがJ1に昇格したのも初めてとなった。

徳島は序盤、京都に押し込まれたものの、39分にDF千代反田 充が先制し、その4分後にはFW津田知宏が追加点をマーク。4年ぶりのJ1復帰を目指した京都は、シュート数で13-4と上回るも、ゴールネットを揺らすことはできなかった。徳島の小林伸二監督は「今日のゲームは本当に出来過ぎのような形で、選手たちが良くやってくれた」と大一番の勝利を評した。



大東チェアマン(左)と優勝盾を持つ徳島の斉藤



※引き分けの場合は、年間順位の優位性を確保するため、年間順位が上位のクラブを勝者とする。

## J2・JFL入れ替え戦

### カマタマーレ讃岐がJ2昇格を決める

ホーム&アウェイによるJ2・JFL入れ替え戦が12月1、8日に行われ、JFL 2位のカマタマーレ讃岐がJ2昇格を決めた。J2で22位のガイナレ鳥取と対戦した讃岐は、ホームの第1戦を1-1で引き分けた後、アウェイの第2戦を1-0で勝利し、通算成績を1勝1分とした。敗れた鳥取はJFLへの降格ではなく、来シーズンは新設のJ3に戦いの場を移すことになった。

第1戦で追い付かれて引き分けた讃岐は、第2戦で20分にFW高橋 泰が2試合連続の先制点。その後、鳥取の反撃を受けて守勢に回ったものの、この1点を守り抜いた。香川県出身の讃岐の北野 誠監督は「香川県の地にJリーグのクラブをつくりたいという思いを、達成できてうれしい」と喜びを語った。



サポーターと喜びを分かち合う讃岐の選手たち

【J2・JFL入れ替え戦】  
第1戦 讃岐 1-1 鳥取  
第2戦 鳥取 0-1 讃岐

## 中村俊輔 (横浜FM) が最優秀選手賞

13年ぶりの栄誉。2度の受賞は史上初



今シーズンのJリーグを締めくくる「2013 Jリーグアウォーズ」が12月10日、神奈川県横浜アリーナで開催された。2013シーズンに輝かしい足跡を残した選手や監督、クラブ、審判などの功績をたたえて行う表彰式。華やかなスポットライトを浴びたステージ上にヒーローたちが姿を現すと、詰め掛けたファン・サポーターが大きな拍手と歓声で祝福した。最優秀選手賞には横浜F・マリノスのMF中村俊輔が選ばれた。



最優秀選手賞のプレゼンターを務めた佐藤真海さん(右)と中村。スピーチでは「素直にうれしい」「感謝の気持ち」と受賞の感想を述べた



各賞の表彰を前にあいさつを行う大東チェアマン



© J.LEAGUE PHOTOS

Jリーグ杯(優勝銀皿)、チャンピオンフラッグを携え、晴れやかな表情でステージ上に勢ぞろいした広島のみ々



最優秀監督賞はデジタル一眼レフカメラが副賞の一つに。受賞した森保監督(左)は、最後まで諦めずに戦い続けた選手たちをたたえた

### 歴代最年長の最優秀選手賞

大分トリニータ、ジュビロ磐田の順で始まり、川崎フロンターレ、横浜F・マリノスと続いて入場したJ1の17クラブの選手たちが着席すると、いよいよ今シーズンのチャンピオンとなったサンフレッチェ広島の選手らが登場。森保一監督、Jリーグ杯(優勝銀皿)を

携えたキャプテンのFW佐藤寿人を先頭に、中央ステージに進み出た。

日本サッカー協会(JFA)の大仁邦彌会長よりJ1優勝クラブの表彰を受けた後、Jリーグの大東和美チェアマンが登壇してあいさつを行った。今シーズンを振り返った後、「20年の歴史を経たJリーグは今、大きな節目。Jリーグは、さらなる成長のために新しい

チャレンジを進めていく」と力強くスピーチ。ファン・サポーター、パートナー各社、メディア関係者に1年間の感謝を述べた。

ジョン・カビラ、石山愛子の両氏というおなじみの司会コンビがテンポよくセレモニーを進行し、今シーズンのJリーグを彩った「顔」ともいべき選手らが、次々に表彰された。受賞者は晴れやかな表情でステージに立ち、



ベストイレブンに輝いた選手たち。前列左から川又、大迫、大久保、青山。中列左から柿谷、中村、山口。後列左から森重、那須、中澤、西川

「2013 Jリーグアウォーズ」受賞一覧 (丸数字は受賞回数)

最優秀選手賞	中村 俊輔(横浜FM、②)
(GK)	西川 周作(広島、②)
(DF)	那須 大亮(浦和、初) / 森重 真人(F東京、初) 中澤 佑二(横浜FM、⑥)
ベストイレブン	中村 俊輔(横浜FM、③) / 山口 螢(C大阪、初) 柿谷 曜一朗(C大阪、初) / 青山 敏弘(広島、②)
(MF)	
(FW)	大迫 勇也(鹿島、初) / 大久保 嘉人(川崎F、初) 川又 堅基(新潟、初)
得点王	大久保 嘉人(川崎F、初)
ベストヤングプレーヤー賞	南野 拓実(C大阪)
最優秀ゴール賞(新設)	柿谷 曜一朗(C大阪、初)
フェアプレー賞 高円宮杯	サンフレッチェ広島 ③
フェアプレー賞(J1)	ベガルタ仙台 初(J2で②)
フェアプレー賞(J2)	ガンバ大阪 初(J1で①、高円宮杯②) / 松本山雅FC 初 ヴィッセル神戸 初(Jリーグで高円宮杯①) / ファジアーノ岡山 初
フェアプレー個人賞	柿谷 曜一朗(C大阪、初) / 佐藤 寿人(広島、③)
最優秀監督賞	森保 一(広島、②)
最優秀主審賞	西村 雄一 ⑤
最優秀副審賞	相楽 亨 ⑥
Jリーグベストピッチ賞	キンチョウスタジアム ② / IAIスタジアム日本平 ① 埼玉スタジアム2002 ③ / 東北電力ビッグスワンスタジアム ④
功労選手賞	中山 雅史 / 土肥 洋一 / 服部 公太
最優秀育成クラブ賞	セレッソ大阪

※功労賞、功労審判員賞は該当者なし



得点王に輝いた大久保は constants にゴールを決めてチームを3位に押し上げた

2013 シーズン J1 リーグ戦 月間ベストゴール

3月	第2節	中村 俊輔(横浜FM)	3月 9日	vs 清水	得点時間: 8
4月	第8節	柴崎 岳(鹿島)	4月 27日	vs 新潟	得点時間: 6
5月	第13節	柿谷 曜一朗(C大阪)	5月 25日	vs 名古屋	得点時間: 67
7月	第16節	齋藤 学(横浜FM)	7月 13日	vs 大宮	得点時間: 36
8月	第21節	中村 俊輔(横浜FM)	8月 17日	vs F東京	得点時間: 89
9月	第27節	佐藤 寿人(広島)	9月 28日	vs 鳥栖	得点時間: 23
10月	第30節	中村 俊輔(横浜FM)	10月 27日	vs 大分	得点時間: 45
11月	第33節	柿谷 曜一朗(C大阪)	11月 30日	vs 鹿島	得点時間: 38
12月	第34節	石原 直樹(広島)	12月 7日	vs 鹿島	得点時間: 35

※6月はJ1開催なし

※ は最終ノミネートゴール



副賞の高級腕時計を手にするベストヤングプレーヤー賞の南野(左)。今シーズンはリーグ戦で初得点もマーク



優秀選手賞の受賞者には副賞としてビッグマック1年分。浦和のMF阿部勇樹(左)が32人を代表して受け取った



新設の最優秀ゴール賞は柿谷(左)が獲得。「キャプテン翼」でおなじみの漫画家、高橋陽一氏がプレゼンターを務めた

周囲への感謝の言葉を述べた。

クライマックスは、表彰の最後となる2013シーズン最優秀選手賞の発表。同賞のプレゼンターを務めたロンドンパラリンピック女子陸上日本代表の佐藤真海さんが読み上げた名前は、横浜FMのMF中村俊輔。2000年に続く2度目の栄誉は、Jリーグ史上初の快挙で、35歳は10年の植崎正剛ら3人の34歳を上回る歴代最年長受賞者となった。

横浜FMはJリーグアウォーズの3日前に行われたリーグ戦の最終節で優勝を逃し、惜しくも準優勝に甘んじた。それでも全34節中、最多の18節で首位に立ち、常に4位以上をキープするなど安定した戦いぶり。そのチームにあって、中村のリーダーとしての活

躍は出色だった。正確なキックを生かしたFKやCKのセットプレーで数多くの得点を演出し、リーグ戦での10得点は自身の1シーズン最多。一方、体を張ったボール奪取など、献身的な守備も披露。「この賞に恥じぬようなプレーをし続けて、サッカー界に少しでも貢献できたら」という、13年前の受賞時の言葉で、スピーチを締めくくった。

ベストイレブン初選出は7人

ベストイレブンは、今シーズンのJ1で17試合以上に出場した選手が対象となる優秀選手賞を受賞した32人の中から、選考委員会が決定した。初選出は12年と同じく7人。今シーズンは日本人選手が得点ランキング

の上位を占める活躍を見せたことを反映し、得点王のFW大久保嘉人(川崎F)、得点ランキング2位のFW川又堅基(アルビレックス新潟)、同3位のMF柿谷曜一朗(セレッソ大阪)、同5位タイのFW大迫勇也(鹿島アントラーズ)がうれしい初受賞となった。また、11人が日本人選手によって占められたのは、09年以来2度目。11人の中で最多受賞はDF中澤佑二(横浜FM)の6度で、5年ぶりの受賞となった。チームメイトの中村は、2000年に続く最優秀選手賞とのダブル受賞。J1優勝の広島からは、GK西川周作、MF青山敏弘が、共に2年連続となった。

J1で26ゴールをマークした大久保は、初の得点王。J1では、これまで自己最多だった



2013  
J.LEAGUE  
AWARDS



高円宮妃殿下(右)よりフェアプレー賞 高円宮杯を授けられた広島森保監督



フェアプレー個人賞の佐藤(右)と柿谷を思いやり、敬意を払うことを心掛けているという

### サポーターステージショー

Jリーグアウォーズのオープニングに先立ち、サポーターステージショーが行われた。サポーター投票によって事前に選ばれた「J2 Exciting 22」(各J2クラブから1名ずつ選出)の22選手が登場。その中から当日の来場者投票によって決定した「J2 Most Exciting Player」に、ガンバ大阪のMF遠藤保仁が輝いた。

また、J2最優秀ゴール賞には東京ヴェルディの19歳のMF中島翔哉が第35節の対ザスパクサツ群馬で決めた得点選ばれた。



J2 Most Exciting Playerに選ばれた遠藤(左)。見事に1年でG大阪をJ1復帰に導いた



最優秀主審賞を5年連続して受賞した西村氏



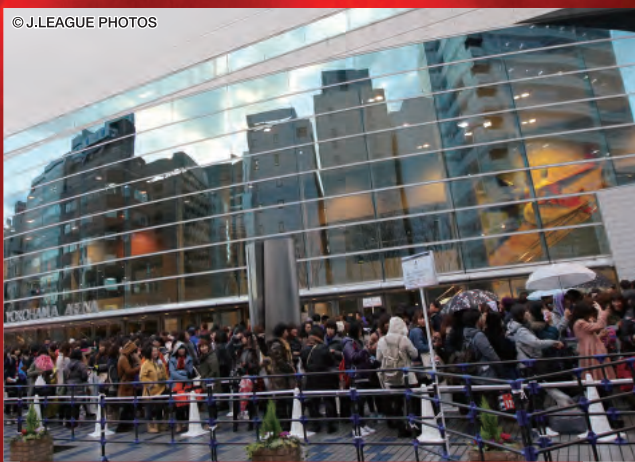
相楽氏は最優秀副審賞を歴代最多となる6度受賞



功労選手賞の表彰を受けた、左から服部、土肥、中山の各氏。長年にわたるJリーグ、日本サッカーへの多大な貢献が認められた



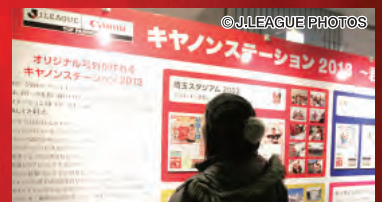
最優秀育成クラブ賞の副賞が河野俊嗣 宮崎県知事(右)からC大阪の岡野雅夫 代表取締役社長へ



2013 Jリーグアウォーズの会場となった横浜アリーナ。小雨の降る中、熱心なファン・サポーターが早くから詰め掛けて開場を待った



コンコースではさまざまな催し。今シーズンのJ1・J2全試合の写真も展示された



Jリーグのオフィシャルパートナーによる展示、プレゼントなども行われた



普段は間近で見ることができないJリーグ杯(優勝銀皿)など各種表彰カップを展示



東日本大震災、フィリピン台風の被災地支援活動の原資となる募金活動を実施

2003シーズンの16ゴールを大きく上回る活躍で、チームの3位躍進に貢献。「素晴らしい賞に恥じないように、もっともっと努力して素晴らしいプレーを見せられるようにしたい」と、気持ちを新たにしました。

1992年4月2日以降生まれで、J1出場17試合以上が対象となるベストヤングプレーヤー賞は、FW南野拓実(C大阪)の手に。前シーズンの3試合(無得点)から29試合(5得点)と、出場機会を大幅に増やした。

### 柿谷が3部門で受賞

最優秀監督賞は、広島をJ1で2連覇に導いた森保監督が手にした。「また、このような素晴らしい舞台に立てるよう、クラブ一丸と

なって来年も戦いたい」と抱負を語った。

今シーズンから設けられた最優秀ゴール賞を獲得したのは柿谷。ファン・サポーターの投票を基に選出されたリーグ戦の月間ベストゴールから、最終ノミネートとなる5ゴールを決定。その中から、柿谷が第33節の対鹿島で決めた得点が、選考委員会で決定した。柿谷は同賞とベストイレブンに加え、フェアプレー個人賞も獲得。原則としてJ1で警告・退場処分がなかった選手が対象となり、「昨年、(佐藤)寿人さんがフェアプレー賞をもらった時に、僕も来年ももらいたいと思った」と話した。その佐藤は、ことしで歴代最多となる3度目の受賞となった。

リーグ戦で反則ポイントが34以下のクラブ

に与えられるフェアプレー賞(J1)は、広島とベガルタ仙台。最も反則ポイントが少なかった広島には、JFA名誉総裁の高円宮妃殿下より高円宮杯が授与された。反則ポイントが42以下のフェアプレー賞(J2)は、ガンバ大阪、松本山雅FC、ヴィッセル神戸、ファジアーノ岡山が受賞した。

最優秀主審賞、同副審賞は、それぞれ西村雄一氏が5年連続5度目、相楽亨氏が5年連続で最多となる6度目。Jリーグベストピッチ賞は4スタジアム。中山雅史、土肥洋一、服部公太の3氏が功労選手賞の表彰を受けた。最優秀育成クラブ賞には、ベストイレブンの柿谷、MF山口 螢、ベストヤングプレーヤー賞の南野らを輩出したC大阪が選ばれた。

## J3リーグ 大会名称および リーグロゴについて

Jリーグは、J3リーグの大会名称とリーグロゴを下記の通り決定した。

■大会名称 J3リーグ(略称: J3)

■大会ロゴ



【参考】

	正式名称	大会名称
J1	Jリーグディビジョン1	Jリーグ J1リーグ戦
J2	Jリーグディビジョン2	Jリーグ J2リーグ戦
J3	J3リーグ	J3リーグ

## Jリーグ入会審査(J3)結果について

Jリーグは、12月2日に開催した臨時理事会で、J3入会を申請していたグルージャ盛岡に対し、下記の通りJリーグへの入会を承認した。審査結果およびクラブの概要は、下記の通り。

### ■J3への入会を申請し、承認

グルージャ盛岡 (敬称略)	
法人名	株式会社いわてアスリートクラブ 代表取締役社長: 白井 康雄
設立	2009年4月10日
所在地	岩手県盛岡市肴町4-20 永卵ビル2F
所属リーグ	東北社会人サッカーリーグ1部
ホームタウン	盛岡市
ホームスタジアム	盛岡南公園球技場



盛岡にJ3入会承認を伝える  
Jリーグの大東チェアマン

【参考】J3参入決定クラブ ※2013年12月17日現在

- グルージャ盛岡
- ブラウブリッツ秋田
- 福島ユナイテッドFC
- FC町田ゼルビア
- Y.S.C.C.横浜
- SC相模原
- AC長野パルセイロ
- ツエーゲン金沢
- 藤枝MYFC
- ガイナーレ鳥取
- FC琉球
- JFA/Jリーグ U-22選抜チーム(仮称)

## 2014 J3リーグ 大会方式および試合方式について

Jリーグは、2014 J3リーグの大会方式および試合方式を下記の通り決定した。

2014 J3リーグ 大会方式および試合方式について	
名称	2014 J3リーグ
主催	公益財団法人 日本サッカー協会 / 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
大会方式	3回戦総当たりリーグ戦(ホーム&アウェイ+ホーム or アウェイ) 全33節 / 198試合
開催期間	3月9日(日)~11月23日(日・祝)
試合会場	原則として各クラブのホームスタジアム ※JFA/Jリーグ U-22選抜(仮称)はホームゲームを開催せず、対戦チームのホームゲームとして試合を行う。
開催概要	《試合方式および勝敗の決定》90分間(前後半各45分)の試合を行い、勝敗が決しない場合は引き分けとする。 《勝点》 勝利:3点、引き分け:1点、敗戦:0点 《年間順位の決定》 リーグ戦が終了した時点で、勝点合計の多いチームを上位とし、順位を決定する。 ただし、勝点と同じ場合は、以下の順によって順位を決定する。 ①得失点差 ②総得点数 ③当該チーム間の対戦成績(イ:勝点、ロ:得失点差、ハ:総得点数) ④反則ポイント ⑤抽選 ※抽選は、J2昇格チームの決定など、理事会が必要と判断した場合のみ実施される。
試合エントリー	1チーム16人以内(外国籍選手は2人まで。ただし、Jリーグ提携国の国籍を有する選手1人に限り、追加エントリー可)
選手交代	試合中の選手の交代は5人以内とする。
警告の累積	J3リーグにおいて警告累積が4回に達した場合、同大会の直近の試合が出場停止となる。
出場資格登録期限	2014年9月19日(金)

※表彰については決定次第発表

### 【J2・J3の入れ替え】

- J2は下位2クラブ(21位、22位)を降格対象とし、1クラブ(22位)は自動降格、1クラブ(21位)は入れ替え戦へ出場。
- J3は上位2クラブを昇格対象とし、1クラブ(1位)は自動昇格、1クラブ(2位)は入れ替え戦へ出場。
- 入れ替え戦に勝利したクラブが翌シーズン、J2に所属する。
- JFA/Jリーグ U-22選抜チーム(仮)はJ2昇格対象外となる。
- ただし、J3上位2クラブがJ2ライセンスを保有していない場合は、以下の通りとなる。
  - ・J3 1位クラブがJ2ライセンスを保有していない場合は、自動入れ替えは行わず、J2 22位とJ3 2位が入れ替え戦を行う。
  - ・J3 2位クラブがJ2ライセンスを保有していない場合は、J2 22位とJ3 1位の自動入れ替えを行い、入れ替え戦は開催しない。
- J3リーグ1位、2位のクラブにJ2ライセンスが付与されていない場合は、3位以下の繰り上げはない。
- JFA/Jリーグ U-22選抜チーム(仮)がJ3 1位または2位の場合は、以下の通りとする。
  - ① JFA/Jリーグ U-22選抜チーム(仮)がJ3 1位の場合
    - ・J2 22位クラブはJ3に降格し、J3 2位クラブがJ2に昇格する。
    - ・J2 21位クラブとJ3 3位クラブが入れ替え戦を行う。
  - ② JFA/Jリーグ U-22選抜チーム(仮)がJ3 2位の場合
    - ・J2 22位クラブはJ3に降格し、J3 1位クラブがJ2に昇格する。
    - ・J2 21位クラブとJ3 3位クラブが入れ替え戦を行う。
- JFA/Jリーグ U-22選抜チーム(仮)以外のJ3 1位、2位クラブまたは3位クラブがJ2ライセンスを保有していない場合は、当該クラブは入れ替えの対象とならない。  
この場合、J3 4位以下のクラブが繰り上がることはない。

### 【参考: J3クラブの選手登録について】

- J3クラブは、シーズンを通して3人以上のプロ契約選手を保有することとする。
- J3クラブが保有できる外国籍選手は2人まで。ただし、Jリーグ提携国の国籍を有する選手1人に限り、追加登録可能とする。

## 2015シーズン以降の大会方式および試合方式について (更新)

Jリーグは、2015シーズン以降のJ1リーグ戦の大会方式を下記の通り決定した。9月17日の発表時から内容が変更となった。なお、チャンピオンシップの大会方式など、未定の部分については決定次第、発表する。

### 2015シーズン以降のJ1リーグ戦大会方式について

#### ■大会方式

18クラブによる2ステージ制リーグ戦および、スーパーステージ(仮称)とチャンピオンシップ(仮称)。

##### [リーグ戦]

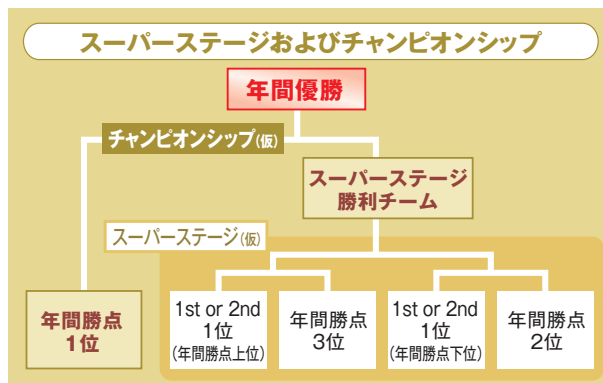
- ・各ステージ1回戦総当たりのリーグ戦。
- ・両ステージでホーム&アウェイとなる。
- ・各ステージ17節、153試合(両ステージ合計306試合)。

##### [スーパーステージ(仮称)]

- ・各ステージの1位チームおよび年間勝点2位、3位チーム(合計4チーム)による、ノックアウト方式のトーナメント戦(1回戦制)。
- ・1stステージ1位または2ndステージ1位のうち、年間勝点が上位のチームと年間勝点3位チーム、1stステージ1位または2ndステージ1位のうち、年間勝点が下位のチームと年間勝点2位チームによる1回戦を行い、1回戦の勝利チームが2回戦に進出し、スーパーステージの勝利チームを決定する。
- ・年間勝点1位チームと、スーパーステージ進出対象チームが重複した場合は、年間勝点1位チームはチャンピオンシップに進出し、スーパーステージには出場しない。
- ・各ステージの1位チームおよび年間勝点2位、3位チームが重複する場合は、各ステージ1位チームがシードされる。
- ・ただし、スーパーステージ出場権を持ったチームが降格対象となった場合は、参加資格を失う。
- ・試合会場はステージ1位チームをホームとする。

##### [チャンピオンシップ(仮称)]

- ・年間勝点1位のチームと、スーパーステージの勝利チームによる対戦。(試合方式および試合数は検討中。決定次第発表)



#### ■年間順位の決定方法

- ・チャンピオンシップ勝者を年間優勝チームとし、敗者を2位とする。
- ・3位以下は、チャンピオンシップ出場チームを除く年間勝点の順位で決定する。(AFCチャンピオンズリーグには、年間順位上位3チームが出場する)

#### ■J1・J2の入れ替えについて

- ・J2リーグ戦における1～2位のクラブは、J1に昇格。
- ・リーグ戦における3～6位のクラブのうち、J1ライセンスが付与されているクラブは、J1昇格プレーオフに出場。勝利クラブ(1クラブ)がJ1に昇格。
- ・J1リーグ戦における16～18位のクラブは、J2に降格。ただし、J2リーグ戦における3～6位のクラブのうち、J1ライセンスが付与されているクラブがない場合は、J1昇格プレーオフは開催されず、J1リーグ戦における16位クラブの降格はなくなり、J2上位2クラブのみがJ1に昇格。
- ・J2リーグ戦1位、2位のクラブにJ1ライセンスが付与されていない場合、3位以下の繰り上げはない。

\*リーグ戦の試合会場は原則として各クラブのホームスタジアム

\*賞金については決定次第発表

## AFC CHAMPIONS LEAGUE AFCチャンピオンズリーグ2014 グループステージ組み合わせが決定

アジアサッカー連盟(AFC)は12月10日にマレーシアのクアラルンプールでAFCチャンピオンズリーグ(ACL)2014のオフィシャルドロー(組み合わせ抽選会)を行い、2月25日(火)、26日(水)に始まる予定のグループステージの組み合わせが右記のように決定した。

日本からすでに出場権を獲得しているのは、J1リーグ戦優勝のサンフレッチェ広島、同2位の横浜F・マリノス、同3位の川崎フロンターレ。残る1チームは第93回天皇杯全日本サッカー選手権大会の優勝チームで、前述の3チームが優勝した場合は、リーグ戦4位のセレッソ大阪が繰り上げで出場する。また、天皇杯の結果によって、横浜FMと川崎Fのグループが決定する。

### AFCチャンピオンズリーグ2014 グループステージ組み合わせ

<西アジア>	
【グループA】	エステグラル(イラン) / アルラヤン(カタール) / アルジャジーラ(UAE) / アルシャバブ(サウジアラビア)
【グループB】	アルファテ(サウジアラビア) / フーアド・フーゼスタン(イラン) / 西地区プレーオフ勝者3-1 / ブニョドコル(ウズベキスタン)
【グループC】	アルアイン(UAE) / アルイテハド(サウジアラビア) / トラクトールサジ・タブリーズ(イラン) / 西地区プレーオフ勝者3-2
【グループD】	アルサッド(カタール) / アルアハリ(UAE) / アルヒラル(サウジアラビア) / セパハン(イラン)
<東アジア>	
【グループE】	浦項スティーラーズ(韓国) / プリーラム・ユナイテッド(タイ) / 山東魯能(中国) / リーグ第3位(日本)
【グループF】	サンフレッチェ広島(日本) / セントラルコースト・マリナーズ(オーストラリア) / FCソウル(韓国) / 東地区プレーオフ勝者3-1
【グループG】	広州恒大(中国) / 第93回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝チーム(日本) / 全北現代モータース(韓国) / 東地区プレーオフ勝者3-2
【グループH】	ウェスタン・シドニー・ワンダラーズ(オーストラリア) / 貴州人和(中国) / リーグ第2位(日本) / 蔚山現代(韓国)

【注】グループ分けが未定の日本の3チーム(第93回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝チーム、横浜FM、川崎F)は、大会レギュレーションに基づき、天皇杯の結果によって下記のように組み分けられる。リーグ戦優勝の広島は、天皇杯の結果にかかわらず第1代表が確定。

- 1) 広島、または横浜FMが天皇杯で優勝した場合 / グループE: C大阪、グループG: 横浜FM、グループH: 川崎F
- 2) 川崎Fが天皇杯で優勝した場合 / グループE: C大阪、グループG: 川崎F、グループH: 横浜FM
- 3) 広島、横浜FM、川崎Fの3チーム以外が天皇杯で優勝した場合 / グループE: 川崎F、グループG: 天皇杯優勝チーム、グループH: 横浜FM



# 「コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP」 11月・12月の受賞選手決定

各月のリーグ戦（J1・J2）において最も活躍した選手を表彰する「コカ・コーラ Jリーグ月間MVP」の11月・12月度の受賞選手が決定した。J1は川崎フロンターレのFW大久保嘉人、J2がガンバ大阪のMF宇佐美貴史。受賞したJ1選手には賞金30万円、J2選手には同じく20万円を授与。選考は当該月のリーグ戦における活躍を対象に、サッカー専門メディアとJリーグからなる選考委員会で行われる。



11～12月の活躍で川崎Fの3位浮上に大きく貢献した大久保

## 実行委員選任について

Jリーグは、12月17日に開催した理事会で、アビスパ福岡の実行委員を大塚唯史氏から下田功（しもだ いさお）氏へ変更することを承認した。また、J2入会クラブおよびJ3入会クラブについて、以下の実行委員の選任を承認した。

実行委員変更			敬称略
クラブ名	変更前	変更後	
アビスパ福岡	大塚 唯史 アビスパ福岡株式会社 代表取締役社長	下田 功 アビスパ福岡株式会社 代表取締役専務	

実行委員選任（新任）		敬称略
J2入会クラブ		
カマタマーレ讃岐 熊野 實（くまのみのる） 株式会社カマタマーレ讃岐 代表取締役社長		

実行委員選任（新任） J3入会クラブ					敬称略
グルージャ盛岡 白井 康雄（うすいやすお） 株式会社いわてアスリートクラブ 代表取締役社長	ブラウブリッツ秋田 岩瀬 浩介（いわけこうすけ） 秋田フットボールクラブ株式会社 代表取締役社長	福島ユナイテッドFC 鈴木 勇人（すずき はやと） 株式会社AC福島ユナイテッド 代表取締役	FC町田ゼルビア 下川 浩之（しもかわひろゆき） 株式会社ゼルビア 代表取締役	Y.S.C.C.横浜 吉野 次郎（よしのじろう） 特定非営利活動法人 横浜スポーツ&カルチャークラブ 理事長	
SC相模原 望月 重良（もちづきしげよし） 株式会社ススポーツクラブ相模原 代表取締役	ツエーゲン金沢 米沢 寛（よねざわひろし） 株式会社ツエーゲン 代表取締役社長	AC長野パルセイロ 丹羽 洋介（にわようすけ） 株式会社長野パルセイロ・ アスレチッククラブ 代表取締役社長	藤枝MYFC 小山 淳（こやまじゅん） 株式会社藤枝MYFC 代表取締役	FC琉球 下地 良（しもじりょう） 琉球フットボールクラブ株式会社 代表取締役	

ブラウブリッツ秋田：12月20日開催予定の臨時株主総会、取締役会で決議を経て、同27日付で代表取締役社長に就任予定

## 2014年度（平成26年度）収支予算について

Jリーグは12月11日に開催した総会で、2014年度（平成26年度）の公益社団法人日本プロサッカーリーグの収支予算を承認した。

単位：百万円

科目	2013予算 (A)	2014予算 (B)	差額 (B-A)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	0	0
受取入金	0	45	45
受取会費	1,171	1,288	116
協賛金収益	3,814	3,814	0
Jリーグ主管試合入場料収益	270	200	▲70
放送権料収益	4,800	4,825	25
商品化権料収益	545	665	120
その他	1,038	1,105	68
経常収益計	11,638	11,943	304
(2) 経常費用			
① 事業費	11,280	11,686	406
リーグ運営経費	2,680	2,602	▲78
クラブへの配分金	6,809	7,066	257
その他	1,790	2,017	227
② 管理費	328	240	▲88
経常費用計	11,608	11,926	318
当期経常増減額	30	17	▲14
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	60	60
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	60	60
当期一般正味財産増減額	30	77	46
一般正味財産期首残高	1,693	1,507	▲186
一般正味財産期末残高	1,723	1,583	▲139
II 指定正味財産増減の部			
指定正味財産期首残高	0	12	12
指定正味財産期末残高	0	12	12
III 正味財産期末残高			
	1,723	1,596	▲127

※百万円未満を四捨五入。端数調整なし  
※2014年度予算は、J3リーグ分を含む。

## 2013 Jリーグ アンフェアなプレーに対する反則金

Jリーグは毎シーズン、アンフェアなプレーによる反則ポイントが多いクラブに対し、Jリーグ規約に基づき、反則金を科している。今シーズンは、下記のようにJ1の1クラブ、J2の2クラブがその対象となった（参考：2012シーズン J1・4クラブ/J2・5クラブ）。これは、Jリーグ規約第11章「制裁」第157条〔アンフェアなプレーに対する反則金〕および第158条〔反則ポイントの計算方法〕に基づく措置となる。

J1	
反則ポイントの年間合計数が102ポイントを超えた場合、当該Jクラブに対し、以下の通り反則金を科するものとする。	
103ポイント以上112ポイント以下	40万円
113ポイント以上122ポイント以下	60万円
123ポイント以上132ポイント以下	80万円
133ポイント以上142ポイント以下	100万円

J2	
反則ポイントの年間合計数が126ポイントを超えた場合、当該Jクラブに対し、以下の通り反則金を科するものとする。	
127ポイント以上136ポイント以下	40万円
137ポイント以上146ポイント以下	60万円
147ポイント以上156ポイント以下	80万円
157ポイント以上166ポイント以下	100万円

順位	クラブ	反則ポイント	反則金	試合数	警告	異議 遅延 行為	警告2回 による 退場	退場	停止 試合 数	警告・1試合 平均 試合数 ポイント	
*1	サンフレッチェ広島	-4	¥0	34	32	2	1	0	3	16	0.12
2	ベガルタ仙台	29	¥0	34	39	5	0	0	4	9	0.85
*3	川崎フロンターレ	38	¥0	34	45	8	0	1	3	9	1.12
4	浦和レッズ	39	¥0	34	46	5	0	1	5	10	1.15
*5	横浜F・マリノス	47	¥0	34	48	8	0	1	8	12	1.38
6	サガン鳥栖	56	¥0	34	50	9	0	1	6	8	1.65
7	アルビレックス新潟	59	¥0	34	55	3	4	0	8	9	1.74
*8	セレッソ大阪	60	¥0	34	49	7	1	1	6	6	1.76
9	FC東京	62	¥0	34	53	6	0	0	6	5	1.82
10	ジュビロ磐田	64	¥0	34	56	5	0	1	5	5	1.88
11	大分トリニータ	65	¥0	34	57	11	0	0	7	8	1.91
*12	鹿島アントラーズ	66	¥0	34	51	7	2	0	8	6	1.94
12	柏レイソル	66	¥0	34	56	3	1	0	7	5	1.94
*14	ヴァンフォーレ甲府	73	¥0	34	50	7	1	4	9	8	2.15
15	大宮アルディージャ	84	¥0	34	44	10	3	4	13	8	2.47
16	名古屋グランパス	85	¥0	34	61	8	1	1	9	5	2.50
17	湘南ベルマーレ	96	¥0	34	58	5	3	2	12	4	2.82
*18	清水エスパルス	119	¥600,000	34	65	7	5	1	15	2	3.50
合計		1,104	¥600,000	915	116	22	18	134	135	1.80	

順位	クラブ	反則ポイント	反則金	試合数	警告	異議 遅延 行為	警告2回 による 退場	退場	停止 試合 数	警告・1試合 平均 試合数 ポイント	
1	ガンバ大阪	15	¥0	42	44	7	0	0	4	16	0.36
*2	松本山雅FC	31	¥0	42	45	6	1	2	5	14	0.74
2	ヴィッセル神戸	31	¥0	42	42	8	2	2	6	15	0.74
4	ファジアーノ岡山	40	¥0	42	53	4	1	0	7	13	0.95
5	モンテディオ山形	60	¥0	42	61	4	1	0	8	10	1.43
6	京都サンガF.C.	69	¥0	42	61	3	2	0	12	11	1.64
7	カターレ富山	73	¥0	42	60	7	3	0	9	8	1.74
8	ギラヴァンツ北九州	83	¥0	42	59	10	2	1	10	7	1.98
9	水戸ホーリーホック	88	¥0	42	57	5	2	4	16	12	2.10
10	ジェフユナイテッド千葉	89	¥0	42	63	9	2	1	12	8	2.12
10	徳島ヴォルティス	89	¥0	42	62	13	2	1	12	9	2.12
12	愛媛FC	93	¥0	42	65	11	2	1	9	5	2.21
12	ロアッソ熊本	93	¥0	42	65	3	1	1	14	7	2.21
14	横浜FC	95	¥0	42	65	3	0	2	12	5	2.26
15	V・ファーレン長崎	97	¥0	42	66	13	3	2	12	9	2.31
*16	栃木SC	100	¥0	42	69	14	2	1	10	6	2.38
*17	東京ヴェルディ	103	¥0	42	69	9	1	2	12	6	2.45
18	コンサドーレ札幌	110	¥0	42	71	11	4	1	14	7	2.62
19	ガイナレ鳥取	112	¥0	42	80	12	2	1	12	7	2.67
20	FC岐阜	124	¥0	42	81	8	8	0	17	8	2.95
21	ザスパクサツ群馬	136	¥400,000	42	77	10	4	3	18	6	3.24
*22	アビスパ福岡	239	¥1,500,000	42	120	14	3	4	32	2	5.69
合計		1,970	¥1,900,000	1,435	184	48	29	263	191	2.13	

\*印のクラブのポイントには、次の停止試合数が含まれる。  
・退場および退席に伴うベンチ入り停止試合数  
・最終節の退場処分により未消化の停止試合数

# 2013 Jリーグ チェアマン総括

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ チェアマン 大東 和美



2013シーズンのJリーグは、リーグ戦開幕20周年という節目を迎えた。

ことしのJリーグは、1993年の開幕以降、過去20年間に積み上げてきたものをあらためて検証しながら、将来成長のための戦略的な議論を重ねた一年となった。2015年以降の大会方式変更という改革案についての議論は、Jリーグの価値をさらに高め、より多くの皆さまに関心を持っていただくためのチャレンジでもある。

さらに新たな取り組みとして、1999年の1・2部制導入から16年目となる来シーズン、J3がスタートする。Jリーグが掲げる百年構想の具現化にまた大きな一歩を踏み出し、新たな仲間誕生に、それぞれの地元を中心に熱い夢を語り合った一年でもあった。

## リーグ戦、リーグカップ戦

J1リーグ戦は、サンフレッチェ広島が最終節で劇的に2連覇を決める展開で幕を閉じた。今シーズンはディフェンディングチャンピオンとして追われる立場となったが、J1最少失点の堅守を基盤に粘り強く戦い、タイトルを守ったことは称賛に値する。反則ポイントも2年連続最少で昨年に続きフェアプレー賞 高円宮杯を受賞し、結果とフェアプレーの両立を実現した戦いぶりは理想的ともいえる。

横浜F・マリノスは最終節で優勝を逃したものの、今シーズンの最優秀選手賞に輝いた中村俊輔選手が先頭に立って攻守に奮闘した。第33節の対アルビレックス新潟でリーグ戦の最多記録を更新する6万2632人の入場者を集め、リーグ戦の平均入場者数でも対前年比プラス4550人を記録したことは、大都市をホームタウンとするクラブの潜在的な力を物語っている。

一方、若い選手の台頭でリーグ戦を盛り上げたのがセレッソ大阪。アカデミー出身選手の才能が開花し、技術力の高い攻撃的なサッカーというスタイルを確立しつつある。

Jリーグで3度の優勝歴を誇るジュビロ磐田の苦戦を、誰が予想できただろうか。高いレベルを維持することの難しさを示した反面、Jリーグが20年の間に成熟し、チーム力がぎっ抗している証左といえる。

J2リーグ戦ではガンバ大阪、ヴィッセル神戸が1年でのJ1復帰を実現。J1昇格プレーオフを制した徳島ヴォルティスは、四国初のJ1クラブとなる。J2・JFL入れ替え戦に勝ったカマタマーレ讃岐の昇格もあり、四国サッカーのさらなる活性化を期待する。

2013 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝では、柏レイソルが14年ぶり2度目の優勝を飾った。AFCチャンピオンズリーグ(ACL)でも日本勢として4年ぶりの準決勝進出を果たすなど底力を発揮した。

来シーズンは、中2日の日程を可能な限り解消したい。Jリーグ規約第42条の、いわゆるベストメンバー規定の改定も決定した。プレーのクオリティ向上、特にACL出場クラブのアジアタイトル獲得につながるよう大いに期待している。

## 成長戦略

20周年という節目を迎え、経済状況やサッカーマーケットのグローバル化といった環境の変化に対応すべく、将来のJリーグの成長戦略について、シーズン移行や大会方式の見直しを中心に議論を重ねた。その結果、2015シーズンから、J1の大会方式を2ステージ制のリーグ戦および、スーパーステージとチャンピオンシップ(共に仮称)に変更することを決定した。この大きな決断に関しては、実行委員をはじめとしたクラブ関係者、選手会、有識者、その他ステークホルダーの方々や意見を交わし、議論を深めてきたが、今このタイミングでの改革が必要との結論に達した。Jリーグのメディア露出の機会を増大し、その価値を多くの方々に評価していただくために、引き続き対話と周知を重ねていきたい。

## J3クラブの誕生

J3は、来シーズンから12チームでスタートする。特別参加枠としてのU-22選抜チームのほか、ガイナレ鳥取、そして10クラブが新たにJ3リーグに入会する。同じく新規入会のカマタマーレ讃岐はJ2からのスタートとなる。J3ライセンス取得を前提とする入会審査にあたっては、人事体制・組織運営基準、法務基準、財務基準といった経営体制の整備、またアカデミーやスタジアム整備などを含めた競技および施設基準を充足するための諸活動が必要となる。これに加え、地元行政との関係づくりなど、入会への道のりは決して簡単なものではなかったろう。しかし、全てのクラブが「わがホームタウンにJクラブを」との熱い思いで努力を重ね、さまざまな基準をクリアして入会を果たした。スタートラインに立った各クラブには、Jリーグ百年構想の実現、新たなスポーツ文化の醸成に力を尽くしていただき、Jリーグが社会になくはない存在であり続けるために、共に努力していけるよう期待している。

## 強化・アカデミー

7月に開催されたEAFF東アジアカップ2013決勝大会では、Jクラブ所属選手だけで構成された日本代表チームが見事に優勝した。多くのJリーグ選手のクオリティの高さが国際舞台であらためて証明された瞬間だった。本大会に出場した選手たちはその後、それぞれが所属Jクラブでも活躍し、終盤のJリーグを盛り上げた。

10月に開催されたFIFA U-17ワールドカップ UAE 2013でも、Jクラブのアカデミーに所属するユース選手たちが多く活躍し、見事ベスト16まで進出した。

来シーズンから始まるJ3への参加が決定したU-22選抜チームは、育成年代の強化を目的にしたものだ。若手選手の試合機会の創出が大きな課題となってきたが、こうした取り組みを含め、今後も日本サッカー協会と連携し、Jリーグにおける選手強化の役割を果たしていきたい。

## アジア戦略

昨年2月のタイプレミアリーグとの提携を皮切りに、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、シンガポールのリーグとの提携が実現した。今後もASEAN各国との関係強化を進めていく。ことしは、ベトナムの英雄と呼ばれるレコンビン選手がコンサドーレ札幌に加入し、アジア進出を考える企業と共に、Jリーグの試合中継にベトナム語の看板が掲出されたり、ベトナムでJリーグに関する報道やリーグ戦の放送が多くなされるなど、高い反響があった。アジアサッカーの発展は、ひいてはJリーグの発展、そして日本サッカーが国際舞台で活躍する原動力になるもの。来シーズンからは、新たにJリーグの外国籍選手登録枠に提携国枠を設けることも決定した。各国に対しJリーグ20年のさまざまなノウハウを提供することでアジア全体のサッカーの強化・発展に貢献していけるよう、さらなる努力を続けていく。

## 復興支援

2011年3月の東日本大震災から2年9か月がたった。私たちJリーグは、「決して忘れない」という強い決意のもと、Jリーグ、各Jクラブがそれぞれに復興支援活動を継続してきた。6月には、国立競技場で復興支援スペシャルマッチを開催し、収益や募金によって被災地沿岸部に簡易照明を寄贈することなどができた。被災地の復興に向けて、特に子どもたちが元気に体を動かすスポーツを楽しめる環境を整えていけるよう、復興支援活動を継続していく。

来年2014年はFIFAワールドカップがブラジルで開催され、また2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催も決定した。FIFAワールドカップでの日本代表の活躍を心から祈念する。2020年のオリンピック開催に向けては、世界中から日本に関心が高まる。国内プロリーグであるJリーグとしては、日本のスポーツ文化を強化し、けん引する立場の一つとして、現状にとどまることなくチャレンジを続け、Jリーグのさらなる価値向上にまい進していきたい。

